

「小さな努力」の積み重ねを大切にしよう！

高校入試も都立高校一般入試は受験者2名でしたが、武蔵野北高、多摩科学技術高校に無事合格を果たし、一段落致しました。これで、受験生全員が将来の希望をもとに選んだ第一志望に合格を果たし、なにより嬉しく思います。

早稲田の杜は小さな塾で塾生も少なく、知名度も高くありません。それゆえ、合格者の絶対数は誇れませんが、一人一人がその適性に合った第一志望に合格できたという相対数では、決して他塾に劣っているとは思っておりません。

私個人が受験生に望むことは、可能性のある限り第二志望という逃げ道など考えず、あくまで第一志望合格を目指し全力を尽くしてほしいということです。ただ様々な要因で第一志望を変更せざるをえない場合もあります。また試験というものはどこに魔物が潜んでいるかわかりません。うまくいかないケースもなくはありません。最善を尽くしたのであれば柔軟な判断も大切になります。その時大事なことはそこで落ち込まず次のステップに希望を持ち進むことです。

これまでさまざまな生徒に接してきました。

その中にはもちろん、超難関校と称される学校に合格できた生徒も多数おります。その反面、一度挫折を余儀なくされた生徒も少なくありませんでした。しかし、そのような生徒でも、その後の頑張りから次のステップでは、立派な結果につなげたケースが少なくありません。例えば、成城高校から東京大学理科一類に合格した生徒、共立女子第二から慶応大学の法学部に合格した生徒、国分寺高校から早稲田大学の政経学部に合格した生徒、調布北から早稲田大学の理工学部に合格した生徒、小金井北から東京外語大学に合格した生徒など、忘れられない生徒は数多くおります。

これらの生徒に共通していたのは、「小さな努力」の積み重ねではなかったかということです。だれかに強制されるのではなく、ただひたすらコツコツ日々勉強を積み重ねていた姿が私の目に焼き付いたまま残っております。

小さな努力の積み重ねがいつかは実を結ぶ。

ある生徒が「私がこんな難しい大学に合格できたなんて、中学時代の友達には信じてくれないでしょうね」と言っていたのが印象深く忘れられません。

大学合格者の話ばかりになってしまいましたが、小学校、中学校、高校どこであろうと「小さな努力」の積み重ねは大事です。新しい学年の始まりがすぐ目の前に来ております。この「小さな努力」の言葉を忘れず大切にしたいと思います。